

白馬村の未来を考えるフォーラム

わたしたちの白馬村と 豊かな暮らしのあり方

寒村であった白馬村は、北アルプスの圧倒的な山岳景観や豊かな自然環境を活かし、世界的な観光地として発展しつつあります。民宿発祥の地として国内外から多くのお客様を受け入れてきた中で、白馬の魅力に惹かれて移り住んできた人も多く、地元民も含めた多様な人々によるコミュニティも地域を特徴づける価値を生み出しています。

その一方で、地域の発展と引き換えに失われつつある「白馬村らしさ」もあるのではないのでしょうか。

私たち白馬村民がこの地で幸せに暮らし続けるために、豊かな白馬村を次世代に受け継いでいくために、何を守り、何を変え、どのように行動していけばいいのでしょうか。地域の担い手として、一緒に学び、考え、実践してみませんか？

9月28日(日) 14:00~16:00

白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階 学習室



宇沢国際学館
占部まり氏



長野県副知事
新田恭士氏



白馬村長
丸山俊郎

参加無料
要事前申込

詳細は裏面をご覧ください。

■ お申し込み・お問い合わせ

白馬村役場 総務課

電話：0261-72-7002

電子メール：kikaku@vill.hakuba.lg.jp



参加申込フォーム

プログラム

1. 講演：これからの地域社会 ～社会的共通資本*の視点から～

講師：占部まり氏（宇沢国際学館 代表取締役）

*「社会的共通資本」とは…

数理経済学者の宇沢弘文氏が提唱した考え方。豊かな社会（人々が豊かな生活を営む社会）に欠かせない要素として、①自然資本（大気、水、森林、土壌など）、②社会的インフラ（道路、交通機関、電気・水道・ガスなど）、③制度資本（教育、医療、金融、司法、行政など）を挙げ、それらを共通財産として持続的・安定的に運用する仕組みの必要性を訴えた。「社会的共通資本」は、誰もが必要とする反面、利益を生み出しにくく、「お金の換算されないもの（できないもの）」であり、市場原理に任せて利益追求のために食われたり、官僚的に支配されたりするのではなく、社会の共通財産として社会全体で守り維持していくことが重要と考えられている。

長野県の総合5か年計画『しあわせ信州創造プラン3.0～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～』においても、「社会的共通資本」の考え方が「共通視点」として取り入れられている。

2. 鼎談（クロストーク）：白馬村の豊かな未来と村民の暮らし

- ・宇沢国際学館 代表取締役 占部まり氏
- ・長野県副知事 新田恭士氏
- ・白馬村長 丸山俊郎

講師・登壇者



宇沢国際学館
占部まり氏

内科医 / 宇沢国際学館代表取締役

「社会的共通資本」を提唱した宇沢弘文の長女。東京慈恵会医科大学卒業。地域医療に従事するかたわら宇沢弘文の理論をより多くの人に伝えたいと活動している。京都大学「人と社会の未来研究院」に設立された「社会的共通資本と未来寄附研究部門」で環境問題や教育・医療など社会的共通資本を基軸に多角的な横断研究の企画運営に協力している。日本メント・モリ協会代表理事 残すに値する未来理事 日本医師会国際保健検討委員など。



長野県副知事
新田恭士氏

1993年建設省入省、2020年筑波大学大学院情報システム工学研究科構造エネルギー工学専攻（博士（工学））修了、2022年道路局国道・技術課技術企画室長、2023年長野県建設部長就任、2025年長野県副知事に就任。



白馬村長
丸山俊郎

■ お申し込み・お問い合わせ

白馬村役場 総務課 電話：0261-72-7002

電子メール：kikaku@vill.hakuba.lg.jp



参加申込フォーム